

2025 年度 JICA 青年研修事業 実施概要

1. JICA 青年研修事業とその目的

開発途上国の青年層を対象に、それぞれの国で必要とされる分野における日本の経験・技術を理解する基礎的な研修を実施し、将来の国づくりを担う人材の育成に協力する事業です。その目的として、

1. 日本における各分野の基礎的な技術や制度に関する知識を習得する。
2. 日本の技術が発展した歴史、経験や文化、社会的な背景を理解する。
3. 対象国の開発課題解決への取り組みに資する知識・意識を向上させる。

が掲げられています。

2. 本研修の概要

- (1) 案件名：環境管理（都市環境管理）B
- (2) 受入国（人数）：ガーナ（2）、コソボ（1）、モーリシャス（1）、メキシコ（1）、南アフリカ（1）、南スーダン（2）、ウクライナ（1）
- (3) 受入期間：2025年11月27日（木）～12月11日（木）【15日間】
- (4) 対象者：環境衛生または都市計画を担当する中央または地方政府の職員、および大学教員
- (5) 受入人数：9名
- (6) 使用言語：英語
- (7) 実施機関：宇部環境国際協力協会、宇部市

3. 各国と宇部市の現状

(1) 受入れ対象国の支援ニーズ

受入れ対象国の支援ニーズと研修員の期待内容は次のようなものがあがっています。

- ・メキシコ：都市環境管全般の理解と水資源管理や大気環境管理、市民参加型まちづくり政策
- ・ガーナ：一般廃棄物の分別回収・再資源化の普及、資源循環型社会の実現、衛生管理と環境保護
- ・南アフリカ：都市部貧困地域の廃棄物管理、海洋ごみ対策、環境に配慮した都市計画
- ・モーリシャス：島嶼国ならではの水環境管理、海洋資源の管理と保全、廃プラ削減とリサイクル
- ・南スーダン：廃棄物管理全般、学校での環境教育、廃プラリサイクル団体、都市計画と防災
- ・コソボ：廃棄物管理能力の向上、汚染防止、河川水資源管理、環境保護
- ・ウクライナ：都市廃棄物、瓦礫の処理、環境保全行政、緑地管理、都市再建

このように各国の様々な研修ニーズを踏まえて、共通の課題である固形廃棄物（ごみ）の管理を中心に講義と見学を実施し、ごみ分別、環境教育・学習、リサイクル事業所の見学のほか、都市計画、都市防災や避難所などについて宇部市の取り組みを紹介します。

(2) 宇部市と宇部環境国際協力協会の国際環境協力

戦後の復興期に大問題となった降下煤塵による激甚な産業公害に対して、地域の「産・官・学・民」四者が相互信頼と協調の精神で取り組み、これを克服した活動が「宇部方式」といわれています。この地域ぐるみの自主的な活動が国際的にも高く評価され、宇部市は1997年国連環境計画（UNEP）からグローバル500賞を受賞しました。宇部環境国際協力協会（宇部アイカ）はこの受賞を契機に翌年1998年に設立され、宇部市と連携しながら「宇部方式」を基調とする地球環境保全のための国際協力を継続して進めています。これまで、JICA 青年研修事業、JICA 草の根技術協力事業、自治体国際化協力促進事業などを受託し、海外から研修員を多数受入れて国際的な環境啓発活動を実施するとともに、市民に向けては環境国際セミナーや環境保全技術講座を毎年開催し、市民による国際環境交流や技術交流の取り組みを支援しています。

(3) 宇部市の環境技術と知見

国際環境協力において宇部市に期待される環境情報技術は、行政或いは企業による大規模な処理やリサイクルに関するもののほか、日常の廃棄物の分別収集の仕組み、様々な市民活動や学校生徒への環境啓発活動など、広範囲な内容を挙げることができます。また、一般市民が各家庭で実施しているごみ分別やコンポストは身近な実践事例として非常に参考になっています。このような認識のもと、宇部市は「宇部方式」の理念に基づく環境保全行政、地球温暖化対策と環境教育に加え、2018年に内閣府から選定された「SDGs 未来都市」による持続可能なまちづくりの取り組みを紹介します。また、公共施設については資源ごみ拠点回収

施設、環境保全センター・リサイクルプラザ、最終処分場など、一般ごみの分別・収集・処理の流れを現地で紹介しながら説明します。市内の企業については、様々な事業所が廃棄物関連事業を展開しているなかから、容器包装プラスチックの再生ペレット化工場と食品廃棄物の飼料化工場を見学します。このほか、自治会住民によるごみ分別の推進啓発や市民ボランティアによる様々な 3R（リデュース・リユース・リサイクル）活動など、行政と市民が一体となった活動の紹介や、山口大学工学部の研究者による講義も実施します。

また、先進的な取り組みとして、県外になりますが、北九州市の「ゼロエミッション構想」を推進する北九州エコタウンとたかみや環境ミュージアムを訪問見学します。

4. 本研修の目的

本研修は目標として「日本における都市環境管理に関する基礎的な技術や制度に関する知識の習得および自国の課題解決に向けた意識向上」が掲げられています。これに応じて、「宇部方式」の理念に基づき、環境分野における行政、企業、大学、市民の協同による宇部市の環境活動事例を基に、対象各国のニーズに沿った若手行政官の能力向上を目的として実施します。

- ・産官学民の連携による歴史的成果と「宇部モデル」を学び、各国の環境問題の解決に応用する
- ・宇部市の都市環境管理政策および、廃棄物管理や市民のごみ分別・リサイクル活動について理解する
- ・宇部市 SDGs 未来都市の取組み、SDGs に関する知識、環境教育・学習の普及活動を理解する
- ・環境管理の制度やその他諸問題について市の職員と情報や意見を交換する

研修員はこれらの学習成果を自国での業務に活かし、課題解決に貢献することが期待されます。

5. 本研修のプログラム

研修員が世界7カ国から9名と多彩で多様なニーズがあること、また対面研修ならではの特性と利点を踏まえて、別紙に示す研修プログラムを策定しました。以下に配慮した点を列記します。

- ・開講日のジョブレポート発表会では7カ国各国がそれぞれ自国の状況を発表し課題を共有します。
- ・対面研修ならではの現場視察見学や実習（せかい！動物かんきょう会議）を取り入れています。
- ・遠隔地からオンライン講義も採用し、限られた時間の中でより深い理解を促進するよう努めています。
- ・講義は一方向でなく、ディスカッションを取り入れ、質問や議論のための時間を設けています。
- ・閉講前に総括討議を行い、相互理解を深める機会を設けています。
- ・閉講日のプログラムレポート発表会では7カ国各国がそれぞれ自国の取り組みを発表し共有します。
- ・休日を利用して広島平和記念公園と平和記念資料館ほかを見学する平和研修を取り入れています。

6. 本研修の達成目標

- 1) 宇部市の環境政策と行政、環境保全、環境教育、地域住民との連携活動、及び企業がもつ環境技術、研究機関による環境保全分野の研究などについて基本的な知識を習得します。
- 2) 「宇部方式」や日本の仕組みと自国の仕組みの違いを理解し、自国の環境課題に対するの具体的な取り組みを検討します。

7. 本研修の実施体制及び運営

独立行政法人国際協力機構(JICA)中国センターが宇部環境国際協力協会に研修業務を委託し、宇部環境国際協力協会が宇部市市民環境部環境政策課とともに研修業務を実施運営します。

8. 本研修の受入れ先

本研修は以下の大学、企業、行政機関と関連施設、宇部市役所、宇部市関連団体および宇部市民の協力により実施されます。

・山口大学工学部、・(株)広島企業、(株)アースクリエイティブ、(株)オープンハウス、(株)トマス技術研究所、宇部地区環境保全協議会・(株)ヌールエ デザイン総合研究所・環境省中国四国地方環境事務所、宇部市市民環境部環境政策課、同廃棄物対策課、同環境保全センター施設課、同市民課、同総務部防災危機管理課、同健康福祉部地域福祉課、同観光スポーツ文化振興課、同都市政策部新庁舎建設課、同公園緑地課・北九州市エコタウンセンター、たかみや環境ミュージアム、・公益財団法人 宇部市常盤動物園協会・宇部観光コンベンション協会、宇部市地球温暖化対策ネットワーク (UNCCA)、宇部市小学校元教員

以上